

ばらんす

第39号

編集発行

大田原市総合政策部
政策推進課 市民協働係
〒324-8641
大田原市本町1丁目4番1号
☎ 0287-23-8715
FAX 0287-23-8748

一人ひとりが輝く
大田原のつどい 2015

いのち ～つなごう!“生命のボタン”第二章～

「大田原市では平和を求め、命をつないでいく女性の立場を強くする活動を進めており、大田原市の女性農業委員は1名から8名と増えた。これは県内一位で全国でも高位にある。市連絡協議会や各種ボランティアの中心になっている女性の活動は大田原市を変える原動力です」と話があった。

心が豊かになって帰ってほしい

主催団体である大田原市女性団体連絡協議会の渡辺陽子会長から、「昨年について命の大切さと家族の絆を描いた映画を上映する。心が豊かになって帰ってほしい」と挨拶があった。

来賓の津久井市長から、

8月29日(土)市総合文化会館ホールで「一人ひとりが輝く大田原のつどい2015」が開催された。大田原のつどいでは、一昨年まで著名人を招いて女性の力の向上や男女共同参画の推進などについて講演会を行ってきたが、昨年はドキュメンタリー映画「生まれる」の上映会を開催して、好評を得た。昨年には続き今年もシリーズの第二章「生まれる ずっと、いつしょ」が上映された。昨年の2005名より多い2005名の来場者があり、子供連れや若い夫婦の姿も目立った。「生まれる」シリーズへの関心の高さが伺えた。

命の継続と家族の絆を考える映画

前作の「生まれる」では、4組の家族が登場した。4年後に製作されたシリーズ第二章「生まれる ずっと、いつしょ」では3組の家族が描かれている。

「生まれる」で登場した、1歳まで生きられる可能性が10%と言われる不治の障がいを持って産まれた赤ちゃんは、第二章では5歳となり七五三のお祝いを受けるまで成長した。初めての飛行機で沖縄へ旅行する。海に足が触れたときの笑顔がまぶしい。

血のつながりのない長男を育てる父に、血のつながる子供が生まれる。「実の父親ではない」という告知によ

り、家族のつながりが壊れないかと夫婦は悩むが、長男の「お父さんが好きだ」という優しい一言で解消する。4人目の孫の出産直前に最愛の妻に先立たれた夫は、遺影の前で涙する日々を過ごしていたが、徐々に昔の趣味を再開する生活を取り戻していく。

笑いが起きるシーンもあり、3家族全員が浜辺でフラダンスを踊るラストシーンでの皆の笑顔が良かった。映画を見終わって、幸せな気持ちが残った。

こんな世だから「ずっと生まれる」

連れ子だけでなく実子への虐待や、老々介護の末の家族崩壊など、暗い話が報道される世になり、少子化も進んでいる。だからこそ命をつなぐことや家族の絆を考える場として、「生まれる」の上映会は各地で続いている。

シリーズ第二章「生まれる ずっと、いつしょ」も人々のつながりを生み、地域を越えて上映会が広がっていくと思う。

参加者アンケートより
【参加者の感想】(抜粋)
・自分の人生の振り返りができた。
・悔いのない毎日を過ごしていきたいと思えた。
・命の絆を強く感じた。



大田原×輝く女性 応援プロジェクト

大田原市地域女性活躍推進事業報告

映画「生まれる」上映会 & コウケンテツさんトークショー

8月9日(日)12時30分〜国際医療福祉大に於いて上映された映画「生まれる」は子どもは親を選んで生まれてくるという胎内記憶をモチーフに4組の夫婦の物語(出産、死産、不妊、障がい)を通して命の尊さ、自分たちが産まれてきた意味や家族の絆、人との繋がりそして生きることを考えるドキュメンタリー映画である。参加者は、男女年齢を問わず、また小さなお子さんを連れとお母さんが多く見受けられた。高校の教師をしている方は「ぜひうちの学校でも上映をしたい、素晴らしい映画、生徒達に観せておきたい」と熱く語っておられた。

トークショーでは、料理研究家であり、育メン、家事メンとして活躍されている「コウケンテツ」さんのユーモアを交えてのお話だった。野菜を中心とした食事の重要性、日本食の素晴らしさなど、日々の食生活を改めて見直すきっかけとなった。また大切なのは、「ごはんを食べる」こと

う教育方針。これから家庭を持つ世代に対し、育メン、家事メン、介メン(介護の大切さを意識付けられたと思う。

今回、福祉大の学生、近隣の高校生がボランティアスタッフとして参加して頂いたことも、若い世代に対して男女共同参画のアピールにつながったのかと思う。



イクボス講座

イクボス推進による人材力・生産力の向上

8月19日(水)講話とロールプレイングを交え、人口減少社会・女性活躍時代の経営マネジメントを含む内容であった。参加者42名、男性62パーセントと壮年男性が多かった。

イクボスとは、職場で部下・スタッフのワークライフバランス(仕事と私生活の両立)を考え、それぞれのキャリアと人生の応援をしながら、組織の実績と結果を出し、仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことを指す。

イクボスが必要とされる背景には、共働き・子育てが必要な現実がある。固定化した価値観と仕事のやり方では進んでいかない。

また、少子化で労働人口も減少しつつあり、介護・育児の問題を解決の方向に持つていくには、イクボスの存在は不可欠であるという。

講師

NPPO法人ファザリング
ジャパン代表 安藤 哲也氏



日本の将来は、高齢化社会。介護人口の増加、少子化と労働人口の減少、そして産業不振が考えられるが、明るい未来を望むために「イクボス講座」が開催されたことは、意義深いことであると。



北限の紅茶

那須雲巖の静謐

にロマンを求めて

大田原市の東部、国の重要文化財である雲巖寺や黒羽茶で知られる須賀川地区、この地で紅茶に情熱をこめる女性がいる。須佐木カフェレストラン(きりん)を営む佐藤長子さんだ。現在、店は紅茶作りに専念するため休んでいる。

この地域は住民の交流や過疎化対策の一環として2015年5月須賀川地区の有志24名により鈴木一利会長のもと『やみぞあづまっぺ協議会』が立ち上げられた。

高齢化により耕作を放棄された「黒羽茶」の茶園を利用し、紅茶用の茶園として活用することになった。紅茶は緑茶と同じ葉で作られる。加工の段階で発酵を加えることにより緑茶にはない味・色・香りが生まれる。その茶葉に地元で栽培された山椒やトウガラシをブレンド、北限の紅茶ならではの風味豊かなフレーバーティに仕上げる。季節ごとの摘み取りはメンバーを中心に他地域からの応援者や体験者を募り楽しんで作業をしている(収穫は年3回)。摘み取った茶葉は、烏山の製茶工場に加工を依頼、その後、佐藤さんの店で数か月間熟成しその後、独自にブレンドし厳選したものを北限の紅茶として販売を開始。今は、須佐木の大森百貨店、大田原市内の三倉カフェ、黒羽の観光交流センターなどで取り扱いをしている。

また、協議会では地域を紹介する花暦を作成し、他地域へのPRにもつとめている。季節ごとに摘み取り体験や収穫祭などのイベントを開催し、多くの地域、たくさんの人々との交流を深めている。

佐藤さん曰く、「これからも地域間交流を深めて大田原市の須賀川地区・雲巖寺地区そして北限の紅茶をみなさんに幅広く紹介していきたい。なお、11月7日に収穫祭を予定しています。たくさんの方の参加をお待ちしています。」とのこと。 お問い合わせは鈴木会長(0287-57-0734)



俺の出番だ!! 満点 パパごはん



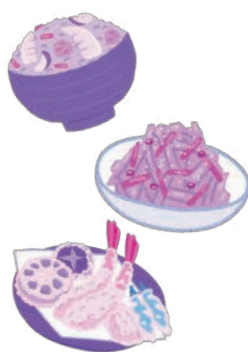
男の料理教室

講師 舘野雄二郎氏

9月5日(土)11時より、トコトコ大田原2階の親子ふれあいキッチンで、男の料理教室が開催された。受講者は子育て世代の男性18名、舘野氏は湯津上出身で同級生2名も参加した。

日曜日には家族がびっくりする。たまには家族がびっくりする。ほどうまい料理で、かつ男性でも簡単にできるようと教えてもらった献立は、鮎と根菜の沢煮、豚肉のきんぴら、和えきんとん、混ぜご飯、野菜と海老の酢どり、餡かけてんぶらの5点。

料理のステップ「仕込み→段取り→仕上げ(盛付け)」ごとに手順とポイントが、すばらしい手さばきに地元ネタが入るトコトコを交えて紹介された。だし



この料理教室は第2段が楽しみ、来年も実施してほしい。出来た!おいしかった!

講師は舘野雄二郎氏。銀座「みちば和食たて野」のオーナーシェフ。大田原ふるさと大使。

パーティ開館20周年記念

何を怖れるフェミニズムを生きた女たち

6月20日(土)パーティとちぎ男女共同参画センターにて開催、参加者は約450名だった。

1970年代のウーマンリブ運動(女性解放運動)から40年にわたる日本のフェミニズムの歴史、62歳から84歳の13人が出演したドキュメンタリー映画だった。男社会から疎まれ、同性からの偏見や誤解の眼にさらされても戦い続けてきた女性たちの力強い生きざまが語られ、「お茶汲み反対運動」の事。また「家事分担については自立してほしい。用意された材料で作るのはお手伝い、お手伝いは子どもでもできる」と桜井陽子さん。日本向老学学会を立ち上げ、第一戦で活躍された高橋ますみさんも認知症になられている様子が撮影されていた。老いを迎えた彼女たちが、闘い続けてきた女性たちの力強い生きざまや活動の軌跡、生きてきた歴史を記録に残し、次の世代に手渡すための映画なのだと感じた。

午後は、社会学者上野千鶴子氏の講演「リブから40年、日本の女はどこまで変わったか？」を聴いた。景気の調整弁として非正規雇用の若者、女性が犠牲になっているとし、講演前日の19日に衆議院を通過した労働者派遣法改正案について「女を一生派遣で使い捨てにする法案」と批判した。「正規雇用のほうが結婚率も出産率も高い」「非正規雇用という不安定な環境で女性は子供を産む決断はできない」とし、「女性の正規雇用」を訴えた。また病気や怪我などで貧困に陥るリスクへの自衛策は不可欠として、夫婦共働きのダブルインカム、トリプルインカムなどさらなる収入源を確保するのが究極の生き残り策と強調した。「リブから45年が過ぎても女の生きづらさは変わっていない」と指摘した。



上野千鶴子氏

これってDV?"あなたは大丈夫?"

11月12日から25日は「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間です。

ひとりで悩まないでまず、ご相談ください。勇気をだして…秘密は守られます。

相手からこんなことをされていませんか?

- 殴る・蹴る
- 殴るふりなどをして脅す
- 子どもの目の前で暴力をふるわれる
- 人前でののしられる
- 生活費を渡してもらえない
- 電話や手紙を細かくチェックされたり外出を制限される
- いやだと思っているのに性的行為を強要される

そのときあなたの気持ちは…?

- 相手の機嫌を損ねるのが怖い
- 自分さえ我慢すればいいと思う
- 家庭内のことだから相談してもムダだと思う
- 加害者から逃げたいけれど経済的な不安を感じてなにもできない
- 誰に相談したらいいのかわからない

一つでも当てはまるものがあれば下記までお問い合わせ下さい

子ども幸福課 ☎0287-23-8932
月～金曜日/8:30～17:00
※祝祭日及び年末年始を除く

大田原警察署 ☎0287-24-0110
いつでもどうぞ

認定NPO法人
ウイメンズハウスとちぎ ☎028-621-9993
月～金曜日/9:00～17:00

配偶者暴力相談支援センター
●とちぎ男女共同参画センター
☎028-665-8720
月～金曜日/9:00～20:00
土・日曜日/9:00～16:00

ばらんす掲示板

平成27年度大田原市男女共同参画推進事業者表彰

市では、積極的に男女共同参画推進に取り組んでいる事業者を募集し、表彰いたします。

募集期間 平成27年11月2日(月)から11月30日(月)

※対象や応募方法等の詳細については、広報11月号に掲載しております。

市民力 アップ講演会

期日 平成28年1月23日(土)

会場 那須野が原ハートホール

内容 ①大田原市男女共同参画推進事業者表彰

②市民力アップ講演会 講師:東進ハイスクール現代文講師 林 修 先生
テーマ:未定

※詳細については、広報12月号に掲載を予定しております。

■申込み・お問合わせ先:政策推進課市民協働係 ☎23-8715

編集後記

大田原市男女共同参画広報紙「ばらんす」(1996年創刊)は、今回で39号を数える。その間を市民ボランティア編集委員が支えてきた。地域の男女共同参画を軸に、シリーズ「輝」など市民の活躍する姿を伝え続けている。今後も地域の今・そしてこれからを伝えるため努力したい。(栗原)

編集委員 荒牧 孝道 栗原 敏子
岩元 利孝 藤沼 久子
(五十音順)